

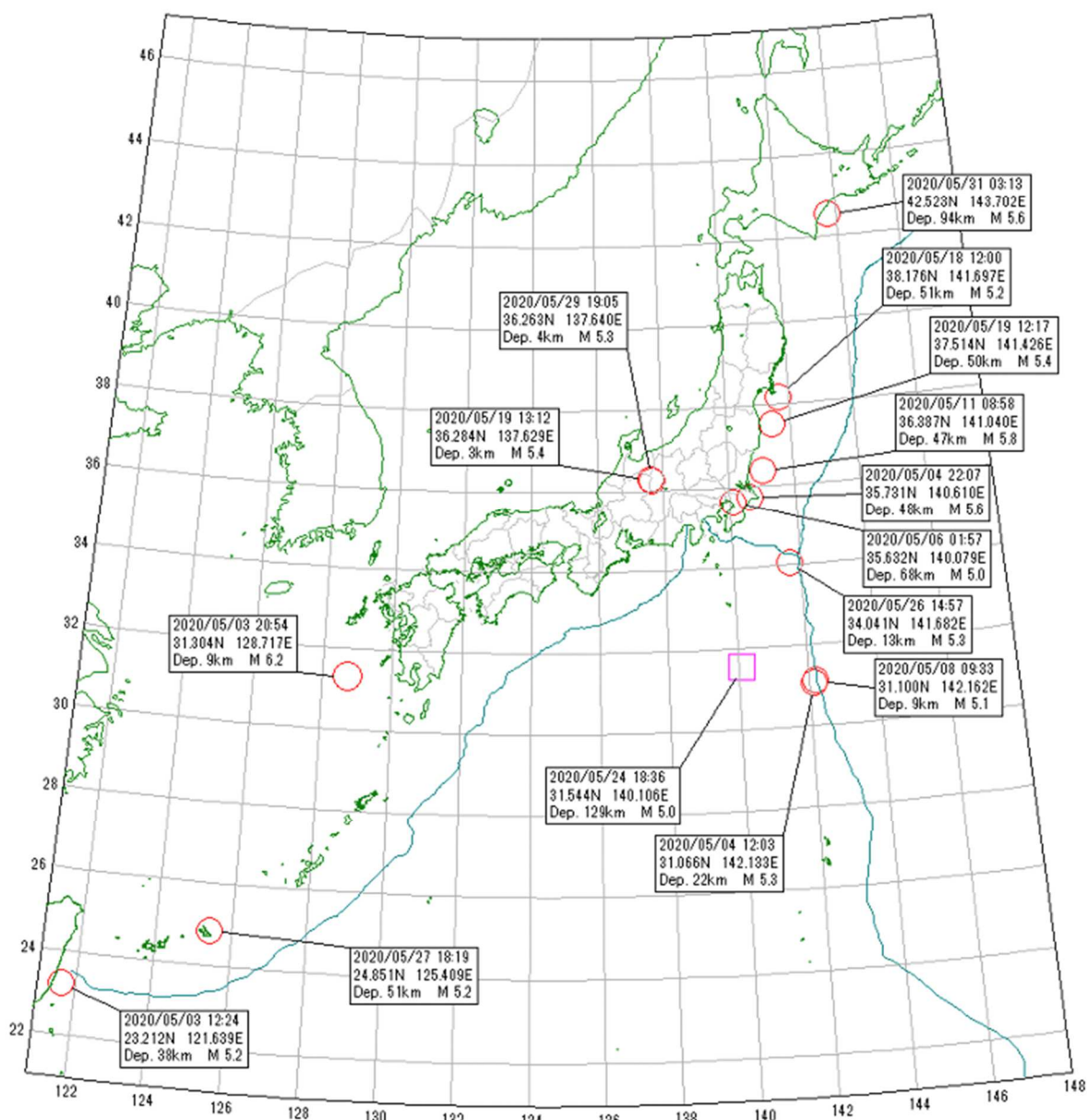
2020年5月の地震活動概観

5月は首都圏で緊急地震速報が立て続けに流れ、「最近地震が多い」「首都直下地震の前触れか」といったSNSも多くみかけられました。

次にお示しする図は5月に発生したマグニチュード5以上のすべての地震です。関東地方から東北沖合でまとまった発生がありました。これらの地震はすべて沈み込む太平洋プレートの上面で発生しており、広い意味では東日本大震災の余震と言える活動です。また、4月23日から活発化した上高地(長野・岐阜県境)の地震は群発地震化しており、5月もマグニチュード5以上の地震が2個発生し、依然として非常に活発な地震活動が続いています。

4月が9個、3月が8個の発生でしたから、5月はやはり地震活動が少し活発であったと言えるでしょう。

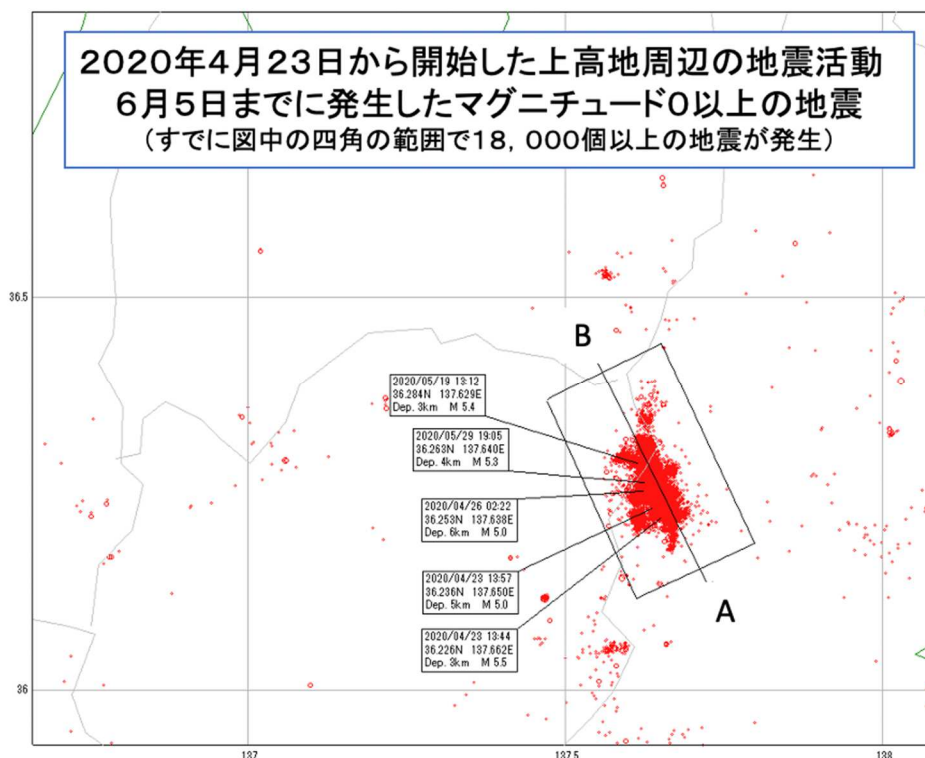
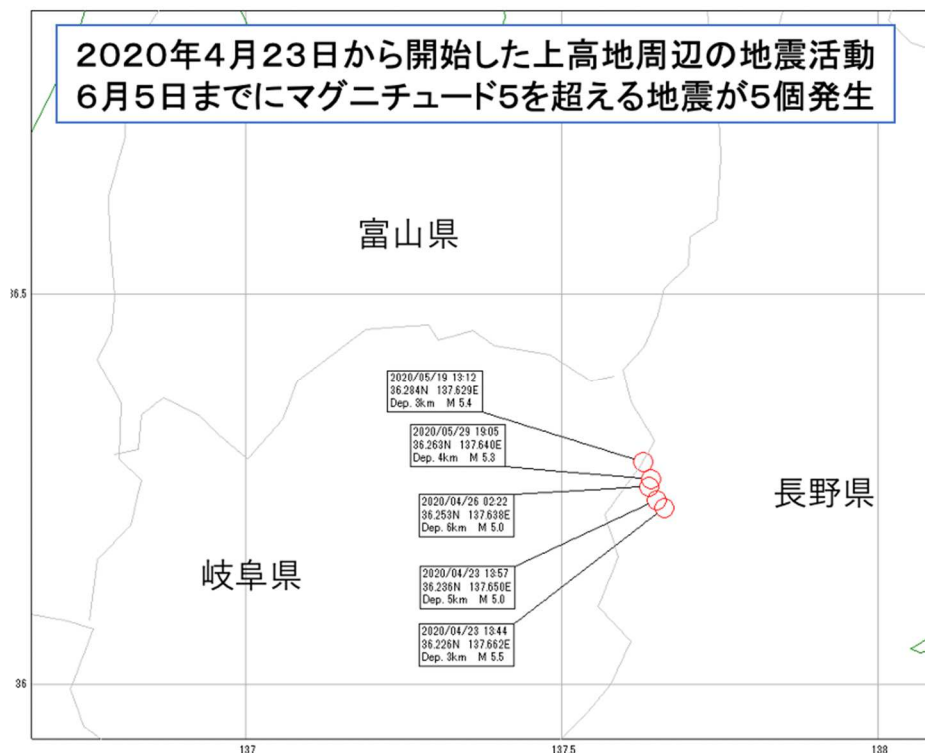
2020年5月に発生したマグニチュード5以上の地震 全部で15個が発生

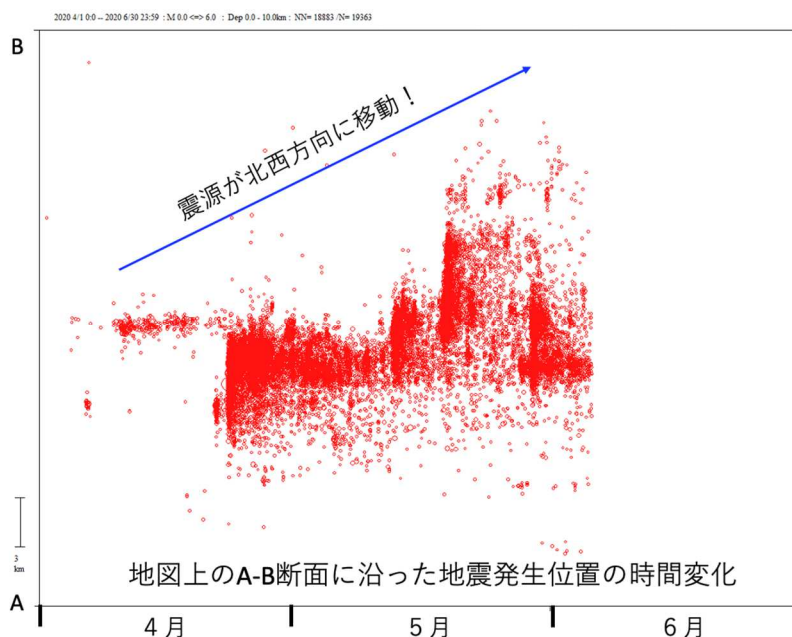




長野・岐阜県境での活発な地震活動(上高地周辺)の続報

4月23日以降、長野・岐阜県境付近で活発な地震活動が続いています。6月5日までにマグニチュード5を超える地震が5個発生しており、震源が北北西—南南東に並んでいる事がわかりました。また震源が南側から北側へ移動している事が確認されています。有感地震としては、まだ200回程度ですが、実は体を感じない小さな地震まで数えますと、すでに **18,000個**もの地震が発生しているのです。





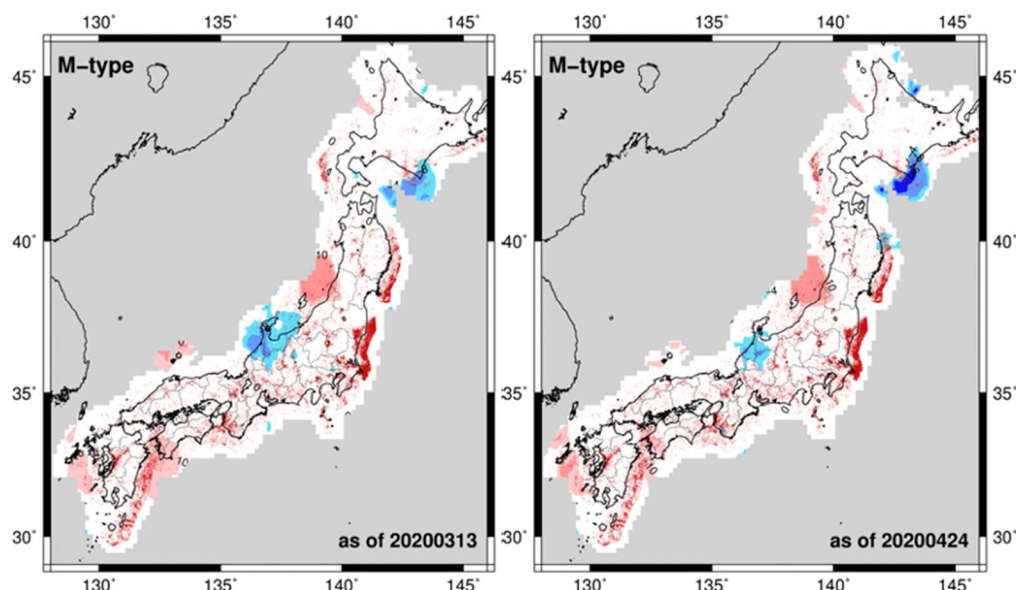
この上高地周辺では、過去にも何度か群発地震活動が発生しており、特に1998年には活発な活動がありました。この北アルプス地方は、太平洋プレートおよびフィリピン海プレートにより日本列島が北西方向に押されており、今でも山脈は隆起しているのです。日本列島がまだ成長している(生きている)という事がこのような群発地震活動として現れているのだと考えられています。

幸い、現時点で火山活動の活発化は観測されておらず、この活動がすぐに大きな噴火に繋がる事可能性は極めて低いと考えられています。

日本列島陸域の地下天気図[®]

4月27日のニュースレターに引き続き、日本列島の陸域に特化した地下天気図解析です。今週は6月5日時点のLタイプおよびMタイプの地下天気図をお示しします。

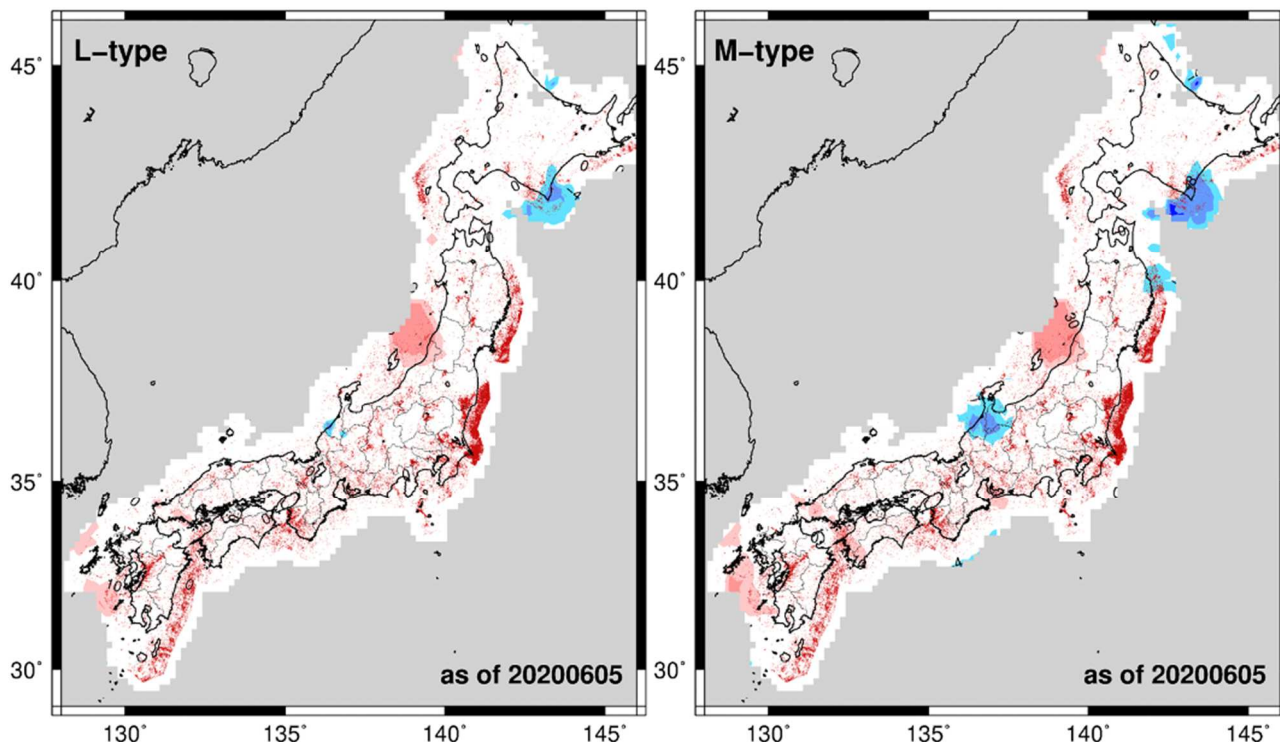
最初にこれまでにお届けした3月13日および4月24日のMタイプ地下天気図を再掲します。





ご覧になっておわかりのように、襟裳岬周辺と北陸地方に青い地震活動静穏化異常が確認されています。

次にお示しするのが、6月5日時点のLタイプとMタイプの地下天気図です。



Lタイプは近傍の地震活動活発化に対して感度が高いため、上高地の群発地震の影響を受け、かなり地震活動静穏化異常が解消してみえますが、Mタイプでは引き続き静穏化が続いている事がわかります。

地下天気図の解釈として、1)現在進行中の上高地を中心とした激しい群発地震活動がこの静穏化に対応するものであった。2)今後石川県・富山県・岐阜県でさらに大きな内陸直下型地震が発生する、という事になります。

右側の図は金沢における地下天気図の時間変化を表したものです。金沢周辺では311以降では初めての地震活動静穏化の異常でした。

